

## 参禅

島 裕幸

念入りに帛紗をさばく初点前

瀬戸内の潮風香る冬の海

待庵で茶道学びし冬の梅

春めくや湖面まぶしい光る波

立春や波の静けさ琵琶湖なり

和やかに桜花咲く時待てり

厳かな立礼茶事の枝垂梅

禅寺の庭に舞い入る花吹雪

春深む今日庵の庭の竹

束の間の淡路旅する春の海

東風吹くや野に咲く花の香りかな

春光や日差し和やか東福寺

朝涼や湖面流れし波しずか

まろやかな抹茶を味わう夏まひる

夏の日や祖父母笑いし憩いの場

梅雨明けの空を見上げる日差しかな

夏蔭や雨止む街の静けさよ

淡路島夏の潮風奏でたり

霊園に潮風舞うや夏旺ん

秋待つや祭りのあとの静けさよ

雨降るや目覚めし朝の秋簾

富士山の姿かくれし霧時雨

秋高し青空澄みし興聖寺

秋江のせせらぎ聞きし立ちつくす

秋晴れや利休弔う南宗寺

閑静な座禅入りたる暮の秋

紅葉見て心静まる静寂さ

初雪や風の沁み入る妙心寺

冬めくや風格香る妙心寺

冬深む参道歩く修行僧

# 作者紹介

島 しま 裕幸 ひろゆき 1971年大阪府生まれ 職業 介護福祉士

2004年頃から俳句創作を始める。

見よう見まねで俳句をやり続けていたが、俳句そのものが理解できているのか

疑問をおぼえ、2016年より句会「狩」（現「香雨」）に入会し投稿を通じて、

主宰鷹羽狩行氏の指導を受ける。

2020年、句会「草炎」に移り、俳句創作を続ける。

私自身、手本とさせていただいている松尾芭蕉翁が探求された「軽み」に少し

でも近づいてゆけるよう今後も俳句創作に励みたい。